

～2023 年度総会報告号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 北川太一
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
一般社団法人日本協同組合連携機構内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX: 03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@japan.coop
ホームページ: <http://www.coopstudies.com/>

2023 年度 日本協同組合学会会員総会要録

【重要】日本協同組合学会 会員総会 議決報告について

2023 年度の会員総会につきましては、生協生活文化会館および Zoom によるリモートのハイブリッド開催により 2023 年 6 月 3 日（土）に開催されました。

各議案についての議決につき、ご報告申し上げます。

■ 議決結果

すべての議案について、総会参加者全員の賛成が確認され可決されました。

第 1 号議案 2022 年度事業報告（案）について

第 2 号議案 2022 年度収支決算（案）について
監査報告について

第 3 号議案 2023 年度事業計画（案）について

第 4 号議案 2023 年度収支予算（案）について

事業報告・事業計画、決算・予算、監査報告を以下に掲載いたします。

第 1 号議案 日本協同組合学会 2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

1. 各種会議の開催について

(1) 会員総会

2022 年 5 月 28 日 京都 J A ビル地下 2 階 web ハイブリッド開催

議案 2021 年度事業報告・収支決算、2022 年度事業計画・収支予算

(2) 理事会

1) 第 21 期第 2 回 2022 年 5 月 27 日 京都キャンパスプラザ web ハイブリッド開催

議案 2021 年度事業報告・収支決算、2022 年度事業計画・収支予算、学生会員の
2021 年度会費免除措置

審議 学会誌賞の選考

- 2) 第 21 期第 3 回 2022 年 9 月 9 日 にいがた弁天貸会議室 web ハイブリッド開催
協議 学会賞「実践賞」の選考について（応募なし）

(3) 常任理事会

- 1) 第 21 期第 4 回 2022 年 5 月 9 日（月） web 開催
- 2) 第 21 期第 5 回 2022 年 7 月 25 日（月） web 開催
- 3) 第 21 期第 6 回 2022 年 11 月 7 日（月） web 開催
- 4) 第 21 期第 7 回 2023 年 1 月 30 日（月） web 開催
- 5) 第 21 期第 8 回 2023 年 3 月 24 日（月） web 開催

2. 大会・研究会等の開催について

(1) 研究大会の開催と企画準備

1) 第 40 回研究大会（春季）

2022 年 5 月 28 日（土）13：00～16：00 京都 J A ビル（web ハイブリッド開催）

◎シンポジウム「地域づくりの新段階と協同組合」

2) 第 42 回大会（秋季）

2022 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）新潟大学および新潟弁天貸会議室（web ハイブリッド開催）

第 1 日目：9 月 10 日（土）

公開シンポジウム（日本 NPO 学会・日本地域経済学会共催）

「市民の自立・自立と労働者協同組合」

第 2 日目：9 月 11 日（日）

個別論題報告（13 報告）、テーマセッション（2 セッション）

3) 第 41 回研究大会（春季）と第 43 回大会（秋季）の企画準備

◎ 第 41 回研究大会（春季）

2023 年 6 月 3 日（土）～4 日（日）に、特定非営利活動法人・地域と協同の研究センターを実行委員・共催として、「（東海）地域の実践から問いかける『協同組合らしさ』」をテーマに、生協生活文化会館 4 階（名古屋市）およびエクスカッション（奥三河・協同のまちづくり見学交流）を開催

◎ 第 43 回大会（秋季）

2023 年 9 月 8 日（土）～10 日（日）に、明治大学駿河台キャンパスにおいて開催予定

(2) 部会活動（主な活動）

1) 女性と協同組合研究部会：

開催：2022年7月26日19:00~20:30（web開催）

内容：「女性クォータ制について（ドイツ法を参考にして）」

講師：関英昭会員（青山学院大学名誉教授）

関会員よりドイツ法と日本の実態を比較検討したレジュメを基に、協同組合の現状・実態も含めて議論。

2) 協同組合とグローバリゼーション部会：

① 開催日：2022年8月28日（web開催）

内容：「たねと食とひと@フォーラム」より報告

② 開催日：2022年12月5日（web開催）

内容：高橋巖会員の論文「食料自給率は向上できるのか？食料自給率を向上させる気はあるのか？」を議論

3) 協同組合教育研究部会

① 開催日：2022年12月20日（web開催）

内容：「日本社会の現状と協同組合事業の概要」を伊丹謙太郎会員より報告

② 開催日：2023年3月14日（web開催）

内容：ブラジル社会の現状と連帯経済の概要」をヨシアキ・シンボ氏（サン・カルロス連邦大学）より報告

③ 開催日：2023年3月16日（web開催）

内容：「アイデンティティ教育をテーマとした研究例会」を開催し、JCA 伊藤治郎会員、栗本昭会員より報告のうえ議論

4) 経済学経営学研究部会

① 開催日：2022年4月17日（web開催及び生活文化会館）

内容：通算第8回 「実践発の討議」『生協組合員の購買行動と活動・社会意識（仮説）』向井忍会員からの情報提供、他、論点提起（石橋一郎会員、安藤信雄会員、田辺準也会員、川島美奈子会員）

② 開催日：2022年7月17日（web開催及び生活文化会館）

内容：通算第9回 「研究的討議」（秋大会テーマセッション、予定レジュメ他）

③ 開催日：2022年8月21日（web開催及び生活文化会館）

内容：通算第10回 「実践発の討議」秋大会テーマセッションの意見交換および上掛利博会員より報告（生協で働く労働者の労働運動等の話題提供）

④ 開催日：2022年10月16日（web開催及び生活文化会館）

内容：通算第 11 回 「研究的討議」秋大会テーマセッションの討議等

⑤ 開催日：2023 年 2 月 12 日（web 開催及び生活文化会館）

内容：通算第 12 回 「実践発の討議」2022 年度研究会のまとめ他

3. 学会誌「協同組合研究」の編集・刊行について

(1) 「協同組合研究」の刊行

1) 第 42 巻第 1 号（通巻 110 号）2022 年 6 月 15 日刊行

特集：日本協同組合学会 第 41 回大会

2) 第 42 巻第 2 号（通巻 111 号）2022 年 12 月 15 日刊行

特集：日本協同組合学会 第 40 回春季大会

(2) 編集委員会の開催

2022 年 5 月 23 日（月）（第 21 期第 2 回）web 開催

2022 年 8 月 19 日（金）（第 21 期第 3 回）web 開催

2022 年 11 月 24 日（木）（第 21 期第 4 回）web 開催

2023 年 2 月 7 日（火）（第 21 期第 5 回）web 開催

4. 国際交流について

(1) 中国社会科学院農村発展研究所との交流

第 42 回秋季研究大会へのオンライン参加を案内した。

(2) 韓国協同組合学会との交流

韓国協同組合学会からの依頼により、6 月 3 日韓国協同組合学会夏季学術大会に向けて、北川会長のメッセージ動画をお送りした。

第 40 回春季研究大会へのオンライン参加を案内した。

第 42 回秋季研究大会において、張承權（チャン・スングォン）会長からの動画メッセージを配信した。

5. 2022 年度学会賞・学会誌奨励賞について

○ 学術賞：対象なし

○ 実践賞：対象なし

○ 学会誌賞：対象なし

○ 学会誌奨励賞：

① 菰田レエ也会員「ワーカーズ・コレクティブが労働統合型社会的企業として台頭する条件の考察 —ネットワーク分析から見たリーダーが果たす役割に着目して—」『協同組合研究』第 41 巻第 1 号（2021 年 6 月）

② 石澤香哉子会員「日本における労働者協同組合研究の到達点と課題」『協同組合研究』第 41 巻第 2 号（2021 年 12 月）

6. 組織・広報・総務について

(1) 会員の状況（2023年3月31日現在）

普通会員 376人（前年度 373人）（うち生涯会員 13人）

学生会員 34人（前年度 29人）

賛助会員 47団体（前年度 48団体）

合計 457会員（前年度 450会員）

(2) 広報活動

1) ニュースレターの発行

① Vol.34 No.1（通巻92号）2022年4月5日発行 第40回春季研究大会案内号

② Vol.34 No.2（通巻93号）2022年6月15日発行 総会報告号

③ Vol.34 No.3（通巻94号）2022年8月15日発行 研究大会案内号

④ Vol.34 No.4（通巻95号）2022年12月15日発行 研究大会報告号

2) ホームページの更新

随時更新し、会員への情報提供等をはかった。

3) 会員メーリングリストによる情報発信

(3) 総務事項

1) 事務局

一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）に学会事務を委託し、円滑な運営に努めた。

2) 学生への会費免除措置

新型コロナウイルス問題による経済的困窮から会費の支払いが困難となった学生会員に対して、自己申告による2022年度の会費免除を募り、1名の会費を免除した。

3) 日本学術会議の在り方についての声明

常任理事会声明として、2023年1月17日付で発表した。

4) デジタル化

会員情報管理システムを、日科技研による従来のシステムから、学会バンクの提供によるシステムに移管した。8月号のニュースレターにて会員に対し、会員情報管理システムの移管について案内するとともに、メールアドレスの登録を行うことと、原則クレジットカードでの会費支払を要請した。

学会誌のデジタル化に関しては、外部業者（企業組合ワーカーズ・コレクティブ企画編集・のもの）に委託した。PDFファイルが作られていなかった創刊号から通巻67号までの全文をスキャンして画像PDFとして保存する作業を行った。また、学会誌の著作権規定が設けられた2005年の通巻68号以降2021年度109号までに掲載された論文・記事をJ-Stageで公開した。

5) 会員アンケート

大会や交流会の開催形式や今後の学会活動に関して、会員のニーズを把握するため、2022年12月～2023年1月にかけて、ウェブ上でアンケートを実施し、51名から回答を得た。集計結果はニューズレター96号（2023年4月15日発行）にて報告した。

第2号議案 日本協同組合学会 2022年度収支決算

貸借対照表（2023年3月31日現在）

一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,869,809	9,489,782	△ 619,973
普通預金	8,869,809	9,489,782	△ 619,973
ゆうちょ銀行	367,307	4,808,497	△ 4,441,190
農林中央金庫	3,690,489	2,458,303	1,232,186
三井住友銀行	4,812,013	2,222,982	2,589,031
前払費用	65,010	0	65,010
流動資産合計	8,934,819	9,489,782	△ 554,963
資産合計	8,934,819	9,489,782	△ 554,963
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	8,000	△ 8,000
前受会費	12,000	33,000	△ 21,000
流動負債合計	12,000	41,000	△ 29,000
負債合計	12,000	41,000	△ 29,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
伊東学会誌賞基金	730,000	770,000	△ 40,000
指定正味財産合計	730,000	770,000	△ 40,000
2. 一般正味財産	8,192,819	8,678,782	△ 485,963
正味財産合計	8,922,819	9,448,782	△ 525,963
負債及び正味財産合計	8,934,819	9,489,782	△ 554,963

(注1) 会計基準は、公益法人会計基準に準拠しています。

(注2) 前払費用 第43回大会懇親会会場費

(注3) 前受会費 普通会员2名

正味財産増減計算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	3,398,000	4,046,000	△ 648,000
普通会員	1,692,000	1,968,000	△ 276,000
学生会員	69,000	75,000	△ 6,000
賛助会員	1,460,000	1,460,000	0
過年度分	177,000	543,000	△ 366,000
事業収益	234,865	195,600	39,265
春季大会関係収入	22,000	0	22,000
参加費収入	22,000	0	22,000
機関誌収入	212,865	195,600	17,265
雑収益	67,271	54	67,217
基金戻入	40,000	20,000	20,000
経常収益計	3,740,136	4,261,654	△ 521,518
(2) 経常費用			
事業活動費	2,669,951	1,685,897	984,054
春季大会関係費	231,948	0	231,948
会場費・運営費	230,668	0	230,668
旅費・交通費	1,280	0	1,280
秋季大会関係費	22,847	22,274	573
会場費・運営費	22,847	22,274	573
研究会関係費	14,400	7,300	7,100
機関誌発行費	2,354,340	1,579,061	775,279
機関誌印刷費	585,772	761,200	△ 175,428
機関誌発送費	77,748	94,561	△ 16,813
機関誌編集費	1,690,820	723,300	967,520
学会賞	0	53,631	△ 53,631
学会誌賞	46,416	23,631	22,785
事務局費	896,148	674,991	221,157
資料印刷費	344,839	262,834	82,005
通信費	342,578	289,290	53,288
旅費・交通費	1,006	1,008	△ 2

雑費	207,725	121,859	85,866
業務委託費	550,000	550,000	0
システム管理費	110,000	55,000	55,000
経常費用計	4,226,099	2,965,888	1,260,211
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 485,963	1,295,766	△ 1,781,729
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 485,963	1,295,766	△ 1,781,729
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 485,963	1,295,766	△ 1,781,729
一般正味財産期首残高	8,678,782	7,383,016	1,295,766
一般正味財産期末残高	8,192,819	8,678,782	△ 485,963
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 40,000	△ 20,000	△ 20,000
当期指定正味財産増減額	△ 40,000	△ 20,000	△ 20,000
指定正味財産期首残高	770,000	790,000	△ 20,000
指定正味財産期末残高	730,000	770,000	△ 40,000
III 正味財産期末残高	8,922,819	9,448,782	△ 525,963

2022 年度収支計算書 (2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)

一般会計

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	進捗率	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	3,999,000	3,398,000	85%	
普通会員	1,956,000	1,692,000	87%	終身会員 13 名
学生会員	93,000	69,000	74%	
賛助会員	1,450,000	1,460,000	101%	48 団体 (新規 1 団体)
過年度分	500,000	177,000	35%	
事業収入	947,400	234,865	25%	
春季大会関係収入	30,000	22,000	73%	第 40 回春季研究大会 (5 月 28 日)

				WEB) @1000×22
参加費収入	30,000	22,000	73%	
秋季大会関係収入	660,000	0	0%	
参加費収入	180,000	0	0%	
交流会費収入	480,000	0	0%	
研究会関係収入	25,000	0	0%	
機関誌収入	200,000	212,865	106%	機関誌購読料
報告要旨集収入	32,400	0	0%	
雑収入	45	67,271		預金利息 年会費決裁手数料分
基金戻入	50,000	40,000	80%	伊東学会誌賞基金戻し入れ
事業活動収入計	4,996,445	3,740,136	75%	
2. 事業活動支出				
事業活動費	4,853,000	2,669,951	55%	
春季大会関係費	420,000	231,948	55%	第40回春季研究大会(5月28日WEB)
会場費・運営費	250,000	230,668	92%	コメンテーター1名謝金・会場使用料等
資料印刷費	120,000	0	0%	
旅費・交通費	50,000	1,280	3%	コメンテーター1名交通費
秋季大会関係費	1,280,000	22,847	2%	第42回大会(9月10日11日 WEB:新潟大学)
会場費・運営費	450,000	22,847	5%	WEB会議使用料
資料印刷費	150,000	0	0%	
旅費・交通費	200,000	0	0%	
交流会費	480,000	0	0%	
研究会関係費	120,000	14,400	12%	グローバルセッション部会・経済学・経営学部会
機関誌発行費	2,753,000	2,354,340	86%	
機関誌印刷費	900,000	585,772	65%	第42巻第1号 第42巻第2号
機関誌発送費	100,000	77,748	78%	第42巻第1号 第42巻第2号
機関誌編集費	1,753,000	1,690,820	96%	第42巻第1号 第42巻第2号 デジタル化
学会賞	125,000	0	0%	
学会誌賞	55,000	46,416	84%	学会誌奨励賞2名 賞状印刷費
国際交流費	100,000	0	0%	
事務局費	790,000	896,148	113%	
資料印刷費	260,000	344,839	133%	ニューズレター・限定会員情報・封

				筒等印刷費
通信費	300,000	342,578	114%	会費請求・ニュースレター等発送費
会議費	20,000	0	0%	
旅費・交通費	10,000	1,006	10%	金融機関入金確認時交通費 監事監 査交通費
雑費	200,000	207,725	104%	ZOOM 利用料・振込手数料・決済手 数料・消耗品費等
業務委託費	550,000	550,000	100%	JCA
システム管理費	200,000	110,000	55%	年度更新・学会バンク移行費
予備費	10,000	0	0%	
事業活動支出計	6,403,000	4,226,099	66%	
事業活動収支差額	△ 1,406,555	△ 485,963		
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0		
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0		
投資活動収支差額	0	0		
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0		
2. 財務活動支出				
その他の財務活動支出	50,000	40,000		伊東学会誌賞基金取り崩し
財務活動支出計	50,000	40,000		
財務活動収支差額	△ 50,000	△ 40,000		
IV 予備費支出	0	-----		
当期収支差額	△ 1,456,555	△ 525,963		
前期繰越収支差額	0	9,448,782		
次期繰越収支差額	△ 1,456,555	8,922,819		

第3号議案 日本協同組合学会 2023 年度事業計画

(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)

1. 機関会議の開催予定について

- (1) 総会：通常総会（決算・予算等）を 2023 年 6 月 3 日に生協生活文化会館（名古屋市）において開催する（実開催とリモート開催のハイブリッドを予定）。また、臨時

総会を9月9日明治大学で開催する。

- (2) 理事会：第21期第4回（総会提出議案等）を2023年6月2日に生協生活文化会館（名古屋市）において開催する（実開催とリモート開催のハイブリッドを予定）。第21期第5回を2023年9月8日に明治大学で開催する。
- (3) 常任理事会：概ね2か月に1度の頻度で開催する。

2. 大会・研究会、および部会活動について

- (1) 第41回研究大会(春季)を生協生活文化会館（名古屋市）において2023年6月3日(土)に開催する（実開催とリモート開催のハイブリッド）。また、第43回大会（秋季）を明治大学において2023年9月8日～10日に予定する。
- (2) 新協同組合理論研究会を継続し実施する。
- (3) 部会活動
 - 1) 協同組合とグローバリゼーション部会
 - 2) 女性と協同組合研究部会
 - 3) 協同組合教育研究部会
 - 4) 経済学経営学研究部会

3. 学会誌「協同組合研究」の編集・刊行について

- (1) 「協同組合研究」の刊行
 - 1) 第43巻第1号（通巻112号）2023年6月15日刊行予定
第42回秋季大会（新潟大学）シンポジウム、投稿論文、書評ほか
 - 2) 第43巻第2号（通巻113号）2023年12月15日刊行予定
第41回春季大会（地域と協同の研究センター共催）シンポジウム、投稿論文、書評ほか
- (2) 編集委員会
役割分担をはかるなかで円滑な編集業務に努める。
- (3) 学会誌のPDF化および学会ホームページ、J-Stageへの格納・公表を進める。なお、デジタル化作業については、外部業者（企業組合ワーカーズ・コレクティブ企画編集のもの）へ発注する。

4. 国際交流について

韓国協同組合学会、中国社会科学院農村発展研究所との交流を継続する。

5. 学会賞について

- 1) 2022年度学会賞の審査、選定、表彰を行う。
- 2) 2023年度学会賞実践賞の募集（6月末日まで）、審査、選定、表彰を行う。

3) 2023年度学会賞に向けた募集を行う（2024年2月末日まで）。

6. 組織・広報について

(1) 広報活動

- 1) ニュースレターの発行
- 2) ホームページの随時更新
- 3) 会員メーリングリストによる情報発信
- 4) 会員情報の提供

(2) 組織活動

会員の新規加入促進の継続、会費の円滑な納入に向けて対応を進める。

(3) 事務局および会員管理の外部委託

JCA（一般社団法人 日本協同組合連携機構）に事務委託を継続し、円滑な運営に努める。

また、外部の無料ツールを採用し（株式会社マーカーネット（学会バンク）のサービス利用契約による。）、会員管理の効率化を図る。

第4号議案 日本協同組合学会 2023年度収支予算

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	2022年度 予算額	2022年度 決算額	2023年度 予算額	前年 実績比	備 考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	3,999,000	3,398,000	3,999,000	118%	
普通会員	1,956,000	1,692,000	1,956,000	116%	
学生会員	93,000	69,000	93,000	135%	
賛助会員	1,450,000	1,460,000	1,450,000	99%	
過年度分	500,000	177,000	500,000	282%	
事業収入	947,400	234,865	1,295,000	551%	
春季大会関係収入	30,000	22,000	435,000	1977%	第41回春季大会 地域と協同の研究センター（名古屋市）での開催を予定
参加費収入	30,000	22,000	180,000	818%	地域と協同の研究センター見積による
交流会費収入	0	0	255,000	-	〃
秋季大会関係収入	660,000	0	660,000	-	

参加費収入	180,000	0	180,000	-	第43回秋季大会は実開催とし2022年度予算と同額を見込む。
交流会費収入	480,000	0	480,000	-	同上
研究会関係収入	25,000	0	0	-	予定なし
機関誌収入	200,000	212,865	200,000	94%	機関誌購読料
報告要旨集収入	32,400	0	0	-	予定しない
雑収入	45	67,271	139,000	-	預金利息45円および、学会バンク決裁手数料
基金戻入	50,000	40,000	50,000	125%	伊東学会誌賞基金取り崩し
事業活動収入計	4,996,445	3,740,136	5,483,000	147%	
2. 事業活動支出					
事業活動費	4,853,000	2,669,951	5,080,658	190%	
春季大会関係費	420,000	231,948	745,358	321%	
会場費・運営費	250,000	230,668	289,290	125%	地域と協同の研究センター見積による
資料印刷費	120,000	0	100,000	-	〃
旅費・交通費	50,000	1,280	176,068	13755%	〃
交流会費	0	0	180,000	-	〃
秋季大会関係費	1,280,000	22,847	1,862,300	8151%	第43回秋季大会は明治大学9/8-10での実開催を予定する
会場費・運営費	450,000	22,847	552,300	2417%	2022年度が未請求のため、加えて2023年度会場費102,300円を加算する
資料印刷費	150,000	0	150,000	-	2022年度予算と同額を見込む(賞状印刷費用含む)
旅費・交通費	200,000	0	200,000	-	2022年度予算と同額を見込む
交流会費	480,000	0	960,000	-	2022年度が未請求のため、加えて2022年度予算と同額を加算する
研究会関係費	120,000	14,400	120,000	833%	新理論研究会、部会活動費
機関誌発行費	2,753,000	2,354,340	2,073,000	88%	第43巻1号・2号
機関誌印刷費	900,000	585,772	900,000	154%	
機関誌発送費	100,000	77,748	100,000	129%	
機関誌編集費	1,753,000	1,690,820	1,073,000	63%	編集業務委託費(大会文字起こし、J-Stage掲載他)、編集委員会旅費10万円を見込む
学会賞	125,000	0	125,000	-	学術賞50,000円×1名、実践賞等30,000円×2名、賞状印刷費

学会誌賞	55,000	46,416	55,000	118%	学会誌奨励賞副賞、賞状印刷費
国際交流費	100,000	0	100,000	-	
事務局費	790,000	896,148	1,057,000	118%	
資料印刷費	260,000	344,839	345,000	100%	ニュースレター・限定会員情報・封筒印刷費で、2022年度実績と同額水準
通信費	300,000	342,578	343,000	100%	会費請求、ニュースレター発送費等で、2022年度実績と同水準を見込む
会議費	20,000	0	20,000	-	
旅費・交通費	10,000	1,006	10,000	994%	常任理事会等（リモート前提として2022予算と同額を見込む）
雑費	200,000	207,725	339,000	163%	振込手数料・消耗品費、WEB会議使用料、学会バンク決裁手数料
業務委託費	550,000	550,000	550,000	100%	JCA委託費
システム管理費	200,000	110,000	0	0%	学会バンク支払い（2022年度決算）は発生しない予定のため見込まない
予備費	10,000	0	10,000	-	2022年度予算と同額を見込む
事業活動支出計	6,403,000	4,226,099	6,697,658	158%	
事業活動収支差額	△ 1,406,555	△ 485,963	△ 1,214,658	250%	
Ⅱ 投資活動収支の部				-	
1. 投資活動収入	0	0	0	-	
投資活動収入計	0	0	0	-	
2. 投資活動支出				-	
投資活動支出計	0	0	0	-	
投資活動収支差額	0	0	0	-	
Ⅲ 財務活動収支の部	0		0	-	
1. 財務活動収入	0		0	-	
財務活動収入計	0	0	0	-	
2. 財務活動支出				-	
その他の財務活動支出	50,000	40,000	50,000	125%	伊東学会誌賞基金取り崩し
財務活動支出計	50,000	40,000	50,000	125%	
財務活動収支差額	△ 50,000	△ 40,000	△ 50,000	-	
Ⅳ 予備費支出				-	
当期収支差額	△ 1,456,555	△ 525,963	△ 1,214,658	-	
前期繰越収支差額	9,448,782	9,448,782	8,922,819	94%	
次期繰越収支差額	7,992,227	8,922,819	7,708,161	86%	

監査報告書

私は日本協同組合学会の2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度貸借対照表および正味財産増減計算書ならびに収支計算書について監査を行った。

監査の結果、上記の計算書類は、日本協同組合学会の2023年3月31日現在の経理状況を正しく示しているものと認める。

2023年5月12日

監事

岡本 一朗

監事

中村 久子

第21期常任理事会報告

第9回常任理事会

第9回常任理事会（2023年5月22日）議事概要は以下の通りです。

1. 企画・学会賞

- 春大会、秋大会について、以下の内容が報告され、意見交換を行った。
- 2023年春大会：午前中に第1部、午後に第2部の構成となっており、第1部は協同組合のアイデンティティをテーマとした議論、第2部は5団体の実践報告である。

登壇者は現地で昼食をとりながら、編集委員を交えて打ち合わせを行う予定とのことである。理事会、総会、懇親会、エクスカージョンを含め、現地で準備を順調に進めている。

- 2023年秋大会：シンポジウムのテーマについては、小山副会長から「協同組合のアイデンティティ、共益と公益」ないし「協同組合のアイデンティティとその本質」として、3つの案が提示された。常任理事会での意見交換を踏まえ、テーマと報告者は引き続き検討することとなった。地域シンポジウムについては、JCA伊藤常務から「世界的協議の動向と日本の取り組み、アイデンティティをめぐる論点」というテーマで、提案が出され、引き続き検討を進めることとなった。
- 実践賞：まだ実践賞の推薦が出されておらず、引き続き推薦を求めることとなった。

2. 編集

- 『協同組合研究』第43巻第1号（2023年6月15日発行）・第43巻第2号（2023年12月15日発行）の編集状況が報告され、積極的な投稿が期待されるとの提起があった。
- 学会誌電子化および編集進行管理の業務委託契約については、現在手続き進行中であり、次回の常任理事会で結果を報告するとのことであった。
- 投稿規程の改定について編集委員会で検討中であり、次回の常任理事会で報告し、提案するとのことであった。

3. 国際

- 韓国の協同組合学会から、秋大会で特別報告を行いたいとのリクエストが来ていることから、報告に向けて具体的な検討に入ることとなった。

4. 総務

- 次号のニューズレター（97号；総会報告号）の内容について報告があった。
- 会員の異動状況について、会費未納の会員に納入を促すこととした。

5. 総会の議題

- 次回総会（6月3日）に諮る議題（1号～4号）の内容について説明があり、総会の進行管理について確認した。

第21期第4回理事会報告

第21期第4回理事会（2023年6月2日）議事概要は以下の通りです。

1. 協議・報告事項

(1)2022年度事業報告案・決算案、2023年度事業計画案・予算案について、提案に基づき審議の上、承認しました。

第43回大会 シンポジウムについて(第2報)

◆開催日程

2023年9月8日(金)

午前 オンライン個別報告 午後 特別シンポジウム

2023年9月9日(土) 10時～16時 大会シンポジウム

※ 大会シンポ終了後、国際交流企画、臨時総会、新理事会、懇親会などを開催予定

2023年9月10日(日) 午前 個別報告(対面)

◆開催地 明治大学駿河台キャンパス

◆開催方式：大会シンポ、特別シンポは対面及びオンライン。個別報告はオンラインのみの報告を9月8日(金)午前に行い、対面のみの報告を9月10日(日)午前に行います。

◆2023年9月8日(金) 13時～16時 特別シンポジウム

テーマ：「日本の協同組合の実践からアイデンティティの議論を深める」

コーディネータ：伊丹謙太郎会員(法政大学大学院 連帯社会インスティテュート)

- 基調報告 伊藤治郎会員(日本協同組合連携機構)「協同組合アイデンティティをめぐる論点、世界的協議の動向と日本の取り組み」
- 取り組み報告①「国際協同組合デー記念中央集会および県域でのワークショップで出された意見や気づき」
- 取り組み報告②「学会春季大会から」地域と協同の研究センター(大会現地実行委員会)
- 現場からの問題意識①
- 現場からの問題意識②
- パネルディスカッション

◆2023年9月9日(土) 10時～16時 大会シンポジウム

テーマ(仮)：「共益と同時に公益を求める協同組合像

——『経済的目的』と『社会的目的』の実現に向けて——」

座長：北川太一会員(摂南大学)

上記のテーマについて、暮らし・消費・エネルギー、金融・地域経済、労働・資源管理、農業・福祉などの分野を念頭において、研究者の報告と実践家も交えたコメントをもとに討議する予定です。

<報告者>

- ① 暮らし・消費・エネルギー分野を中心に：三浦一浩会員(生協総合研究所)
- ② 金融・地域経済分野を中心に：小関隆志会員(明治大学)
- ③ 労働・資源管理分野を中心に：木原奈穂子氏(鳥取大学)
- ④ 農業・福祉分野を中心に：濱田健司会員(東海大学)

第 43 回大会 個別報告の募集

開催場所： 明治大学駿河台キャンパス

開催日時： 2023 年 9 月 8・10 日に個別報告を行います。

以下の要領で募集します。

明治大学大会の個別論題報告・テーマセッションは対面とオンラインの 2 つに分けて実施します。対面での個別報告は 9 月 10 日（日）明治大学駿河台キャンパスにおいて行い、オンラインは 9 月 8 日（金）午前に対面報告とは別で実施します。詳細は後日学会 HP 上にて告知します。

報告を希望される会員は、下記の募集をご覧頂き、本学会ホームページの第 43 回大会個別論題報告・テーマセッションのページにあるフォームからお申込ください（特設ページは開設次第メーリングリストでご案内します）。その際に、対面かオンラインかのどちらかの希望を選んでください。ハイブリッド形式はありません。多数の応募をお待ちしています。

【報告者の会員資格および 2022 年度会費の納入について】

- ① 単独報告の場合 エントリーの時点で、本学会の学会員である（新入会員の場合は、入会申込みを行っている）ことが条件です。会費を滞納されている方は、速やかに納付をお願いします。
- ② 複数人数（連名）による報告の場合 エントリーの時点で、筆頭報告者が本学会の学会員である（新入会員の場合は、入会申込みを行っている）ことが条件です。会費を滞納されている方は、速やかに納付をお願いします。筆頭報告者以外は学会員である必要はありませんが、できる限り入会をお願いします。

【提出の締切・方法】 個別論題報告及びテーマセッション締切日は次のとおりです。

- 報告テーマおよび報告要旨の提出期限 締め切り：7 月 31 日（月）厳守 ※ 報告テーマと報告要旨を同時に提出していただきますのでご注意ください。

【申し込み要領】 本学会ホームページの第 43 回大会個別論題報告・テーマセッションのページにあるフォームからお申込ください。特設ページは開設次第メーリングリストでご案内します。

【個別論題報告要旨原稿の書式】 次の書式に従って原稿を作成し提出してください。準じていない場合は、受け付けられない場合があります。

- ① 1 題につきタイトルも含めて A4 版で 1 枚（厳守）
- ② タイトル：16 ポイント、太字、英数字は半角、中央揃え

- ③ 氏名：12 ポイント、MS 明朝、太字、右揃え
- ④ 所属機関：12 ポイント、MS 明朝、太字、右揃え
- ⑤ 本文：所属機関より 1 行空けて書く。10.5 ポイント、MS 明朝、英数字は半角、句読点「、」（[全]句点）「。」（[全]読点）
- ⑥ 本文：和文は 1,302 字（42 字×31 行）、英文は 400 語（図表は、字数に含める）
- ⑦ マージン：上下 20 mm、左右 22 mm以上とる。

会員メールアドレスのご確認について

☆ ご所属先等の登録内容に変更があった場合は、メールアドレスの登録変更をお願いいたします。現在の登録内容につきましては、学会バンク <https://gkb.jp/> の会員マイページにアクセスして確認いただくか、または、以前にお送りしました限定会員情報をご参照ください。

☆ 当学会では、会員間の情報交換、学会からのお知らせ等のためのメーリングリストを開設しております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、kyodo-gakkai@japan.coop へ連絡ください。

会費納入のお願い

学会の研究活動促進のためにも、会費未納の方は速やかに納入していただくことをお願い致します。会費は学会バンクのオンライン納入システムを通じてクレジットカードによりお支払いください。普通会员は年 6,309 円、学生会員は年 3,155 円です。なお、領収書については学会バンクの会費納入履歴からプリントアウト可能です。

ご不明な点がございましたら、事務局へお問い合わせください。

★ 会則第 6 条により、会費を 3 年以上滞納すると会員の資格を失うことになりますので、ご留意ください。

女性部会 2023 年度企画

志波早苗

趣旨

・2022 年度は「女性クオータ制について」の勉強会を基に協同組合の到達点、問題点を抽出した。

2023 年度は一般企業と比較し、協同組合の優位性（があるのかどうかも含めて両者の働き方・組織形態など）について議論を深める。

・その上で、「ジェンダーと協同組合」が、来年度以降の大会シンポジウムのテーマになることを目標に意見交換を行っていく。

開催日程：7月（意見交換と課題整理）、10月（調査報告・勉強会）、12月（意見交換）、3月（まとめ）

※ 女性部会の活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。

グローバル化と協同組合研究部会 報告

田中夏子

下記のとおり、研究会を開催いたしました。

研究会名「協同組合のSDGsへの取り組み状況と課題」

日時：2023年4月3日18時～19時30分 JCA会議室・オンライン併用

報告者：阿高あや会員（日本協同組合連携機構 主任研究員）

内容：国連がSDGsを策定する段階から協同組合が深く関わっていた概要と、主に農業協同組合における取り組み方針、取り組む際の視点や段取りについてお聞きしました。

また、表面的に取り組んでいるように見せかける「SDGsウォッシュ」とならないよ
うにとの警告もなされました。

2022年度、世界のSDGs達成度ランキングにおいて日本は162カ国中19位と過去最低に低い順位となり、主にジェンダー平等、責任ある消費・生産、気候変動対策、海の豊かさ、陸の豊かさ、パートナーシップの分野で遅れていることを示し、いずれも農協の得意分野であり、組合員と職員が一丸となって取り組めば、日本の達成度向上につながるかと力説されました。

次回研究会については、現在、テーマ、開催時期等、検討中です。詳細決まりましたら、メールにてお知らせいたします。

経済学経営学研究部会 開催日程

安藤信雄

第26回 8月20日（日）13:00～16:45

第27回 10月22日（日）13:00～16:45

第28回 12月17日（日）13:00～16:45

第29回 2月18日（日）13:00～16:45

会場：生協生活文化会館3階 地域と協同の研究センター事務所です。

（名古屋市千種区稲舟通1-29）

オンライン（Zoom）併用です。

参加希望者は、事前にメールにてご連絡ください。

連絡先は、地域と協同の研究センター（向井忍様宛）

email: ca.smukai@gmail.com

実践事例紹介

全国大学生生活協同組合連合会 東海ブロックの取り組み

芝 幸治 (大学生協事業連合東海地区、一般社団法人学生支援の協働・夢プロジェクト)

大学生協東海地区では、食育推進活動の一環として、味噌の産地の見学と味噌の仕込み体験を行い、生産者の食にかける想いを聞くことで、「食の大切さ」「何をどのように選んで食べればいいのか」を参加者が考える機会を継続して提供しています。その中では、参加者に1人前の味噌を仕込んでいただき、持ち帰っていただく取り組みをしています。コロナ禍により、20年、21年と実施を見合わせましたが、昨年から復活しました。

協力いただいているのは、榊塚味噌(のだみそ株式会社：豊田市榊塚西町)さんです。

当日、社長の野田さんから「食とは生きること」、「味噌はつくりたい、育てる」とのメッセージ。その後、「手前みそ」づくりに挑戦です。参加者が実際にどのような食生活をしているのかを交流し、参加者自身の食生活について見直すきっかけとなっています。「食べられる事が当たり前だと思わず、感謝する事が大切だと感じました。」とか、「味噌を実際に作ることで、どのような材料が使われどのような栄養価があるのか実感することができた。味噌汁を毎日飲もうという意識を持つことができた。」という感想が寄せられています。

大学生協東海ブロック事務局長の村瀬さんは、「これからも生産者と組合員をつなげる活動をすすめていきたい」と語ります。



榊塚味噌「食育メッセージ」：<http://www.masuzuka.co.jp/syokuiku/>

図書紹介



学研まんがでよくわかるシリーズ 191『漁業協同組合のひみつ』株式会社 Gakken、2023 年 非売品

漁業協同組合をテーマとする小学生向けの学習教材です（北海道漁業協同組合連合会協力）。内容は幅広く、漁業協同組合の役割や事業の他、協同組合の歴史としてロバート・オウエン、二宮尊徳、安藤孝俊を紹介し、SDGs も解説しています。本書は全国の小学校等に寄贈されており、児童や教員が協同組合や漁業を理解する一助となることが期待されます。なお、同シリーズ 138『たすけあいのひみつ』は協同組合全般をテーマとしており、両書とも学研キッズネット（運営：ワン・パブリッシング）で閲覧できます。（栗原 修）

学研キッズネット（電子ブック）

北海道ぎよれん公式チャンネル(アニメ)

<https://kids.gakken.co.jp/himitsu/library191/>

https://www.youtube.com/watch?v=TmUft7f_8OE



図書紹介のお願い

ニュースレターに、協同組合に関連した図書を幅広く紹介しています。会員の皆様から、こんな良書がある、という情報をぜひお寄せください。

会員の皆様による著書をはじめ、最近注目されている著書や、大学院生に読ませたい推薦書などなど。自薦・他薦を問いません。

図書を紹介していただける方は、書名や著者名、出版社名などをご記入のうえ、メールにて担当（小関 koseki@meiji.ac.jp）宛にお伝えください。amazon 等のオンラインストアにあれば、書名の代わりにその URL を伝えていただいてもかまいませんが、できれば簡単な紹介文をお書きいただくと有難いです。ご連絡をお待ちしております。

基礎的ウェブサイトの紹介

重頭ユカリ（農林中金総合研究所）

既に皆様も参照されていると思いますが、ここでは、海外の協同組合、特に協同組合銀行に関する基礎的なウェブサイトを紹介します。

世界の協同組合全般の動向を知りたいときに参照するのは、国際協同組合同盟（ICA）のウェブサイトになると思います。<https://www.ica.coop/>

ICA のウェブサイトは英語、スペイン語、フランス語版がありますが、サイトのなかで、定款や規約、分野別・地域別組織について、どこでみればよいかは、JCA のウェブサイトで紹介されているので、そちらからたどっていくと見たいページに簡単にたどり着けます。<https://www.japan.coop/wp/publication/6244>

協同組合銀行に関しては、国際協同組合銀行協会（ICBA）があります。世界中の 55 の協同組合銀行等がメンバーとして参加しています。<https://www.icba.coop/news.php>

欧州協同組合銀行協会（EACB）は、欧州の協同組合銀行のほとんどが加盟している協会ですが、こちらは事務局があり加盟行を代表してロビー活動を行う組織であることから、ウェブサイトの内容も非常に充実しています。<https://www.eacb.coop/en/home.html>
少し時期は遅れますが、加盟行の統計データが毎年公表されるので、協同組合銀行の欧州各国における預貸金シェアなどを調べることができます。自分で各行のアンニュアルレポートを見てデータを集めようとする大変な手間がかかりますので、とても便利です。

<https://www.eacb.coop/en/cooperative-banks/key-figures.html>

また近年では、その年の欧州の協同組合銀行の動向をまとめた a concise assessment というレポートが毎年公表されていますので、手軽に状況を把握することができます。

<https://www.eacb.coop/en/studies/eacb-studies/european-coopbanks-in-2021-a-concise-assessment.html>

EACB では、協同組合銀行について研究している学者を組織化していることもあり、Research というコーナーには協同組合銀行に関するレポートが多く掲載されています。またロビー団体でもありますので、EU の金融規制に対する欧州の協同組合銀行の意見をとりまとめたポジションペーパーなどもウェブサイトにも多数掲載されており、こちらも参考になると思います。

会員投稿

研究者と実践者の境界をこえて

利根川徳（協同総合研究所）

私は20年ほど民間企業に勤めた後に、縁があってワーカーズコープの組合員になり、6年前から協同総研で働いています。学会というのは別世界のように思っていたのですが、いろいろと学びの機会をいただき感謝しております。

最近思っていることは、研究者と実践家の境界というのは、かなり曖昧なものではないかということです。学会の目的は「研究者と実践家の協力によって協同組合運動のあり方について学際的に研究すること」であり、協同総研も活動方針として、研究者と実践家の協同による研究活動の推進を掲げていますが、人が創造的に仕事をするとき、そこでは「研究」という要素は不可欠です。協同労働の実践に日々奮闘しているワーカーズコープの組合員などは、実践家であり研究者であるとも言えるかもしれません。

一方で、労協法が施行され、3人から準則主義で設立できるという手軽さもあり、副業で労協を立ち上げる人たちが出てきました。協同組合の研究者も、自ら協同組合の設立や運営に身を投じてみる絶好の機会ではないでしょうか。今後、実践しつつ研究するというスタイルが広がることに期待したいと思います。

会員投稿を募集しています

会員の皆様からのメッセージをお寄せください。ニュースレターの紙面を通じた会員間の交流を図りたいと思います。おおむね40字×10～15行以内でお願いします。

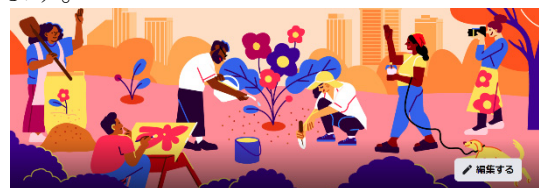
送信先・問い合わせ先 小関隆志(koseki@meiji.ac.jp)

Facebook グループへのご参加・ご投稿をお待ちしています

2022年9月、当学会のFacebookグループ（会員限定）を開設しました。2023年6月時点で約50名の会員の方にご登録いただいています。

ぜひ多くの会員の皆様にご参加いただいて、オンラインでの交流に活用いただければと思います。よろしく申し上げます。参加するには、Facebookのサイトで「日本協同組合学会」のグループを検索してください。

<https://www.facebook.com/>



日本協同組合学会



+ 招待する

ディスカッション 注目 トピック メンバー メディア ファイル リール

